

熊本県内の名所旧跡等をデザイン化した花筵の製品化

新たに導入されたデザインコンピューターと既存のコンピューター制御花筵織機を利用し、地産地消支援ため県内名所旧跡・風景・祭事などをデザインした他用途い草製品（花筵）の1 畳物の通潤橋、うたせ船、灯籠まつりと2 畳物の通潤橋を開発した。

農業研究センターい草研究所加工研究室（担当者：森崎和義）

研究のねらい

デザインコンピューターと花筵織機を利用して、県内の名所旧跡等をデザインした花筵を作成し、各地域での地産地消に繋がる製品を開発する。

研究の成果

1. 通潤橋：通し織りの向きを色部分と地部分（バック）を逆方向に変えて境界、及び光の反射方向を違えたのでより境界がはっきりした。

通し織りの幅を小さくすることで全体の滑らかさを出し、橋から流れ出る水の勢いを大きくふくらませると共に、川面に落ちた水流を波紋で表現しリアル感を表現し、また、橋袂の岩の盛り上がりが大きくすることで遠近感と、橋の上方に見える後方の木々の茂みも透かすことにより単色での立体感表現が可能となった。（写真1及び写真2）

2. うたせ船：イラスト自体が幅広くなっていたため、全体を縦長にして、船の前面からの画像を単色で表現するために、通し織りの幅を狭く色い（染色い）部と白い不染色い部との色の違う部分の織り組織を逆にすることで境界を際立たせた。

立体感を持たせ、船と帆の影の部分を大目と小目の乱れ織りでぼかした織り方を行うことで影を表現しそれぞれの帆がより浮き立って表現できた。また、3本のマストに張られた帆の境界を細かく行い、各帆を浮き出させることで躍動感を出した。（写真3）

3. 灯籠まつり：きめ細かく細工されている灯籠と灯籠から漏れる明かりの表現を大目と小目の乱れ織りでぼんやり表現し、人物の顔を新袋織りで織り込み、髪と着物や帯を通し織りを斜めに配しそれぞれの部分や折りしわや帯の結び目の輪郭を鮮明に出すため、これらの境界処理を細かく処理を行うことで、輪郭をより鮮明にした。

花筵全体の背景を双目織りの行幅を交互に違えることと、下部を暗色の色で織り込み灯籠踊りが行なわれる夜の薄暗さの中の女性像を浮き上がらせる技法を取り入れた。

3色組織で4色表現の織り込みのため、特に裏止めをこまめに行うことで、裏の乱れを無くした。（写真4）

普及上の留意点

これらの製品を製造するためには、デザインデータが利用可能なコンピューター制御花筵織機が必要である。（通常の花筵織機で利用するためにはデザインデータの紋紙化が別途必要となる。）

【具体的データ】

No. 273 (平成18年5月) 分類コード05-07 熊本県農林水産部

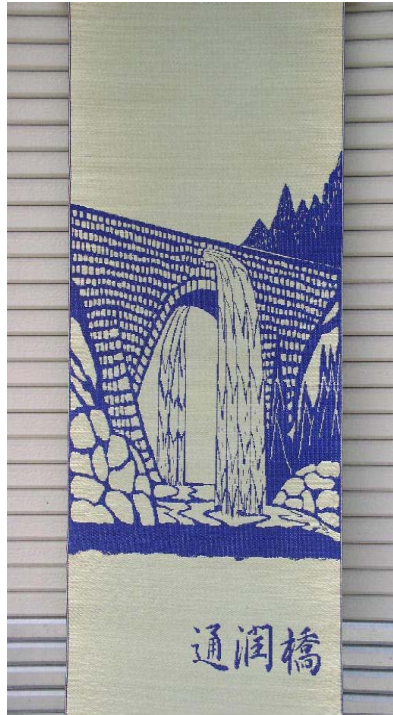


写真1 通潤橋 1 畳物



写真3 打たせ舟



写真2 通潤橋 2 畳物



写真4 灯籠踊り